

(5) 複式学級の授業

教科・領域等〔外国語〕

こんな実践

複数の学年や進度が異なる子どもが同じ教室で学ぶ場合、授業の組み立てや個への支援に悩むことはありませんか？学年や進度の異なる生徒が在籍する自閉症・情緒障害特別支援学級で、わたりとずらしを授業に位置づけた実践です。

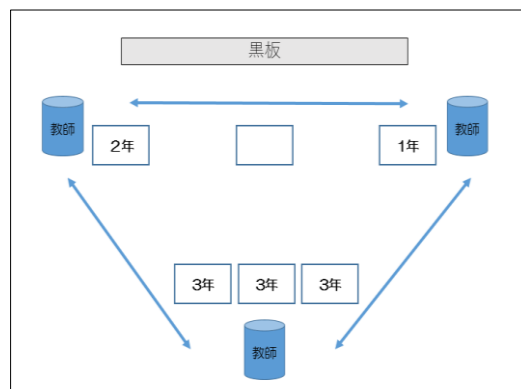
実践学校 A中学校

実践学年 自閉症・情緒障害特別支援学級

(1学年1名, 2学年2名, 3学年3名)

実践時期 7月上旬

- A中学校の自・自情障学級には、1学年から3年生までの生徒が在籍しており、発達の特徴からそれぞれに学びにくさを抱えています。まずは、一人一人が安心して授業に取り組めるように、座席を配置したり、黒板回りの掲示物を精選したりするなど、教室環境を整えました。

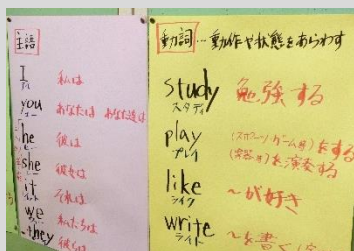


【教室の座席配置と教師の動き】



ここがポイント！

教室環境を整える際に、大事なことは何ですか。



- ✓ 学年ごとにまとめるだけではなく、子どもの実態や人間関係、学習内容等に応じて座席を配置します。掲示物として既習事項等を掲示しておくことで教師が直接指導しなくても自ら学習を進めることができます。

- 一人の教師が複数の学年の生徒に対して行う授業では、個人で学習する場面と、友だちや教師と一緒に学ぶ場面を位置づけて授業を展開しました。【わたりとずらし】

① 個人で学習する場面

生徒が見通しをもって一人でも学習に取り組むことができるよう、1時間の授業で「何を」「どのように」学ぶのか確認します。生徒の実態や既習事項に応じて教材はあらかじめ準備しておきます。

② 友だちや教師とともに追究する場面

同じ学年に複数の生徒がいる3学年は、英語で行うスピーチの内容を「修学旅行」とし、ともに話し合っ
て考える場面を設定しました(☆)。英作文をする場面では、既習内容に個人差があるので、ホワイトボードを活用し、一人一人丁寧に指導します

3年生が共同追究や個人追究をしている間、教師は1年生と一緒に外国語によるやり取りをする活動を行いました。また、2年生が読み取った内容をクイズ形式で確認し、1時間の学習内容をともに見とどけました。

1学年	2学年	3学年
授業の確認 (Today's Point)	授業の確認 (Today's Point)	授業の確認 (新単元導入)
音読 (やりとりの練習)	新出単語調べ (読み取りの準備)	スピーチ材料集め (Today's Point)
☆教師とのやりとり	和訳(プリント)	☆グループ追究
英文の書き取りと 和訳(ノート)		☆英作文個人指導
	☆読み取った内容 確認(クイズ形式)	英作文の作成 (個人追究)
振り返り	振り返り	振り返り

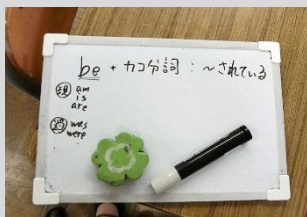
【生徒の学習内容と教師の動き(わたりとずらし)】



ここがポイント!

「わたり」と「ずらし」を効果的に行うためのポイントは?

- ✓ 教師は一人一人の既習事項や実態に応じて、1時間のねらいを明確にすると、復習や追究など一人でできることと、複数で行うことを意図的に位置づけることができます。また、教師の立ち位置や仕切り、ホワイトボードなどを活用して、お互いの学習活動の妨げにならないように配慮することも必要です。



【生徒の机の上に置くホワイトボード】



【集中できる座席の配置】

まとめ

- ・ 学年や進度が異なり、教師の支援が難しいからと言ってプリント学習だけにせず、友だちと意見を交わしたり、教師とともに学習したりする場面を意図的に位置づけ、学習に取り組めるようにします。
- ・ 1時間の授業の中に「わたり」と「ずらし」を意図的に位置づけることで、個や学年に応じた授業を工夫することができます。